

広告

カーボンニュートラル実現の第一歩「非化石証書」の調達管理業務を支援 独自サービスの「リルビス」が好評、新機能追加でより使いやすく

ENEX2025 出展
BIPROGY

再生可能エネルギー等の非化石電源から発電した電力は「環境価値」を持つ。企業がカーボンニュートラルの実現を目指すうえで、この環境価値を使いオフセットできる「非化石証書」の調達はその第一歩と言える。日本卸電力取引所（JEPX）が開設する「再エネ価値取引市場」での年4回のオークションで調達できる。JEPXに会員登録すれば、小売電気事業者の他、一般企業も市場から調達でき、自社のカーボンオフセットや他の企業に販売する仲介事業も可能だ。BIPROGY（22年日本ユニシスから社名変更）は非FIT非化石電源認定業務の受託をするなど、非化石証書に対する知見が深い。同社は市場における非化石証書の調達・管理など煩雑な取引業務を支援する独自のSaaSサービスである「Re:vis（リルビス）」を提供しており、ユーザーから好評だ。昨年には購入量管理と非FIT非化石証書の需要家直接取引に資する新機能も追加されるなど、より使いやすくなっており、注目される。そこで、同社の担当者に関する話を聞いた。



パブリックサービス
第一事業部
角田 有希 氏



パブリックサービス
第一事業部
樋口 慶 氏



パブリックサービス
第一本部
今井 諒太 氏

——非化石証書調達の流れと支援サービスの必要性は。

角田 「再エネ価値取引市場」での取引では、各社が独自にエクセル等を活用して購入したい証書量や属性を集計

——導入したユーザーの声はどうか。

角田 22年のリリース以来、「かゆいところに手が届く」という声をいただいている。非化石証書を入手し、この事業所と顧客に渡すのか、この2つの情報を突き合わせる作業に従来は数時間から十数時間かかっていたが、本ツールを使うと一瞬で作業が終わり、非常に効率化できたとの声もいただいている。

力でも何とかなるが、多くなると対応できなくなる。本ツール（リルビス）を利用すれば、購入に関する複数の情報を取りまとめ一元管理するため、業務の負担を軽減し人的ミスを防げる。特に小売電気事業者や仲介事業者は顧客との取引に関わる情報なので、入力担当者には間違えてはいけないと大きな心理的負担がかかる。本ツールはその軽減になることも知って欲しい。

——追加した新機能の購入量管理については。

角田 昨年4月から提供している。ターゲットは証書の仲介事業者と非化石証書を直接市場から購入する需要家である。電力使用量の情報をもとに再エネ比率を考慮した証書購入量を算出・管理できる機能で、階層管理により詳細な証書の割り当ても可能となる。

——温室効果ガス排出量算定ツールとの連携メリットは。

角田 まだ実現しておらずこれから実現を検討していく機能となるが、算定ツールで把握している電力使用量の情報を本ツールに持つと、必要な証書量の確保に使うことができる。また、入手した非化石証書の情報を算定ツールに戻すことで、排出量のオフセット率が分かる。

今井 中小企業を含む多くの企業が環境価値を購入するようになり、非化石証書の取引が増え情報管理が複雑化したときこそ、本ツールの真価がより発揮できるようになる。

——非FIT非化石証書の需要家直接取引に資する機能も追加したが。

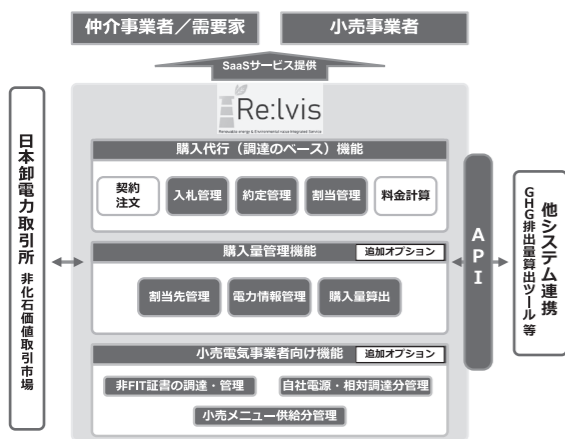
角田 昨年11月から提供している。元々小売電気事業者が入手して電気と非化石証書をセットで再エネ電気メニューとして提供するときの管理機

樋口 非化石証書は環境価値のなかでも利用しやすいと思う。例えば、グループ企業の代表企業が仲介事業者としてJEPXに会員登録して証書を調達し、グループ企業に

今井 本ツールは、JEPXとAPIでつながったため、JEPXのシステムに触れることなく、非化石証書の調達から割り当て、証書発行まで作業が完結できるようになった。本ツールが持つ情報を算定ツールに連携できるようにすると、排出量の見える化までカバーできるようになる。

——今後の機能拡張予定は。

今井 現在の機能は仲介事業者や需要家、小売電気事業者を対象としているが、発電事業者の業務まで領域を広げ、JEPXのシステムを使う全ての方々が利用できるツールを目指している。また、グリーン電力証書やJクレジットといった非化石証書以外の環境価値にも対応できるようにしていきたい。



詳細は「ビプロジー リルビス」で検索



サービス概要



解説動画申込